

JAFSA

Japan Network for International Education

特定非営利活動法人 JAFSA (国際教育交流協議会)

Japan Network for International Education



2024 年度報告書

凡 例

◆団体名、法人格(財団法人、株式会社など)の記載

- ・ JAFSA 会員一覧(JAFSA HP 掲載)の表記と統一とする

◆団体の列記方法

- ・ 原則「会員種別ごと(※)団体名 50 音順」
※『団体正会員(大学)』『団体正会員(教育関連機関)』『団体賛助会員(カテゴリー別)』の順

◆個人名の記載

- ・ 原則「人名(所属機関 所属部署 肩書き)」
- ・ 所属機関、所属部署、肩書きは事業実施当時のものを記載
- ・ JAFSA 役員は「人名(所属機関 JAFSA 役職)」
- ・ 講師／講演者／参加者等すべて敬称略

目次

1. グローバルネットワーキングに関する事業	3
【海外諸団体との交流および支援】	
海外諸団体との連携・アウトリーチ	
1.1. NAFSA 2024 米国・ニューオリンズ大会と「STUDY in JAPAN」	
1.2. EAIE 2024 フランス・トゥールーズ大会と「STUDY in JAPAN」	
1.3. APAIE 2025 インド・デリー大会と「STUDY in JAPAN」	
1.4. その他	
2. 国際教育交流の人材育成に関する事業	10
2.1. オンライン研修プログラム	
2.2. ウェビナー	
2.3. 対面イベント	
2.4. 協力(広報)/後援プログラム、他	
3. アウトリーチ・広報に関する事業	17
3.1. 国際教育交流に関するアウトリーチ	
3.2. 広報に関する事業	
3.3. その他	

JAFSAは、 「グローバルネットワーキング」・「人材育成」・「アウトリーチ」の 3本の柱を中心に活動しています。

1. グローバルネットワーキングに関する事業

JAFSAは、世界各国の国際教育交流団体や国際機関との連携をはかり、これら団体が主催する年次大会にブース出展・セッション発表者派遣等を実施しています。この分野の事業は、JAFSA事業の中核に位置しており、JAFSA会員の方々に、多種多様なネットワーク拡大の場を提供しました。

【海外諸団体との交流および支援】

海外諸団体との連携・アウトリーチ

NAFSA(米国)、EAIE(欧州)、APAIE(アジア太平洋)に最重点をおき、ネットワーク形成の促進を目指しました。各海外諸団体の年次大会を通じ「STUDY in JAPAN」を総合的にプロモートし、日本の大学のプレゼンスを高めるとともに、海外におけるJAFSAの位置づけも強化することを目的としています。

海外フェア出展団体数 大学:32 日本語学校:2 賛助会員:2

NAFSA(National Association for International Educators)



- 1948年に設立。2023年で75周年を迎えた世界最大規模を誇る米国の国際教育交流団体。
- 5月下旬から6月初旬に米国の都市で開催される年次大会は、国際教育交流に携わる関係者が集まる国際交流フェアの規模は世界最大。主にワークショップ・セッション・ブース出展を中心に開催。
- JAFSAは、2008年から「STUDY in JAPAN」として一部ブース出展の取りまとめを開始した。2013年度より独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)と統合して「STUDY in JAPAN」として取りまとめるに至った。2017年度より、出展団体の取りまとめはJAFSA、総合案内はJASSO、という役割分担のもと、「STUDY in JAPAN」ブースを共同運営している。
- 「STUDY in JAPAN」は、NAFSA最上位会員「Global Adviser」としてNAFSA年次大会で日本高等教育の存在を大きくアピールしている。
- 文部科学省より「大学の世界展開力強化事業」の補助費として支援あり(Global Adviser会費とブース装飾品等)

EAIE(European Association for International Education)

➤ 1989年に設立。欧州の国際教育交流団体で国際教育分野の専門家からなるグローバルチームによって運営。



➤ EAIE年次大会は、毎年1回9月に欧州各地の持ち回りで、ほぼ一週間の会期で開催。6,000名以上が参加するヨーロッパの国際教育交流分野では最大のものとなっています。特別講演、セッション、ワークショップ、ネットワーキングイベントのほか、ブース出展が行われ、JAFSA会員大学の中でもEAIEの存在が定着している。

APAIE(Asia-Pacific Association for International Education)

➤ アジア太平洋地域の国際教育交流団体です。毎年3月頃開催される年次大会はNAFSA(北米)、EAIE(欧州)に比べ歴史が新しく規模も小さい。当初は東アジア、東南アジア中心の地域的な団体色が濃かったが、近年は大会参加者・参加機関ともに増え、特に欧米からの参加も増大している。



➤ JAFSAは、2014年ソウル大会より、会員大学を取りまとめて「STUDY in JAPAN」ブースとして出展している。

1.1. NAFSA2024 米国・ニューオリンズ大会と「STUDY in JAPAN」

”Resilience・Renewal・Community” の大会スローガンのもと、失われたものからの回復・再生そして新たなコミュニティ創生を目指し、参加者は約8,600名と世界最大の国際教育交流イベントとして回復を果たした形となった。



展示会場前の様子



日本合同ブースの様子①



日本合同ブースの様子②

・開催日:2024年5月28日(火)~31日(金)

・開催地:米国ルイジアナ州ニューオリンズ市

“New Orleans Ernest N. Morial Convention Center”

・参加者:114ヶ国から約8,600人

・出展数:45か国から314ブース

・協力名義:文部科学省

・後援名義:在ナッシュビル日本国総領事館、一般社団法人 日本経済団体連合会

● STUDY in JAPAN (日本合同ブース)

JAFSA は独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)と共同で、「日本合同ブース」を取りまとめた。日本合同ブースは展示会場内最大規模で NAFSA Pavilion の近く、正面入口脇の目立つ位置で展開。

NAFSA2024「STUDY in JAPAN」(日本合同ブース)出展団体

全24ブース、26大学+1日本語学校+2企業 <団体名50音順>

フルブース	12大学 1団体 1社	神奈川大学、関西大学、関西大学/JIGE、関西学院大学、近畿大学、国際教養大学、上智大学、中央大学、東北大学、名古屋大学、武蔵大学、立教大学、名校教育日本語学校、コンペラジャパン株式会社 +JASSO(総合案内)+JAFSA (運営)
シェアブース	14大学 1社	愛知淑徳大学、青山学院大学、叡啓大学、京都外国語大学、國學院大學、西南学院大学、帝京大学、東海大学、東京大学、東京外国語大学、東京都立大学、南山大学、法政大学、立命館大学、森興産株式会社

● 資料参加

他フェア同様、JAFSAブースに、資料参加希望校の広報資料を有料にて設置。設置資料を契機に、当該大学とのパートナーシップに興味を持った海外大学に連絡先を知らせることで、オンライン打合せなどに発展させていくことが狙いです。

2大学、1教育機関(50音順):	昭和女子大学、成蹊大学、一般社団法人 日本財団ドワンゴ学園準備会
------------------	----------------------------------

● JAFSAセッション

2011年よりNAFSAからJAFSAに対して特別枠をオファーされて実施している、日本の高等教育に関する発表。ニューオリンズ大会では、文部科学省 高等教育局 参事官(国際担当)付 国際連携推進専門官 吉原氏が司会兼プレゼンターとしてセッションを取り纏め、日本における高等教育の現況や日米大学間交流のプロジェクトにつき発表が行われました。

- ・実施日:2024年5月31日(金) 11:30.12:20
- ・講演名:“Japanese and U.S. Universities:
Building on Best Practices for Future Collaboration”
- ・参加者:76名
- ・登壇者:吉原 誉夫(文部科学省 高等教育局 参事官(国際担当)付 国際連携推進専門官)
池田 佳子(関西大学 国際部 教授 グローバル教育イノベーション推進機構 副機構長)
中澤 明子(東京大学大学院 総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構 特任准教授)



セッションの様子



登壇者の様子



セッション後の懇談

● 情報交換会

JAFSA賛助会員である森興産株式会社(WA. SA. Bi.)と株式会社早稲田大学アカデミックソリューションとJAFSAが共催にて情報交換会(懇親会:有料)を実施。出展大学、大会参加者を中心に30大学87名が参加し、来賓に在米国日本大使館 広報文化班 参事官 金城 太一氏を迎え、国際交流業務の情報交換の場を提供しました。

1.2. EAIE2024 フランス・トゥールーズ大会と「STUDY in JAPAN」

JAFSAは独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)と協力して会員大学16大学と1日本語学校を取りまとして「日本合同ブース」を出展した。

- ・開催日:2024年9月17日(火)~20日(金)
- ・開催地:フランス・トゥールーズ市 “MEETT “
- ・参加者:110か国以上から7,300名以上(過去最高)
- ・出展数:250ブース
- ・後援名義:在マルセイユ日本総領事館、一般社団法人 日本経済団体連合会

2024大会は過去最高の大会参加人数となり、中南米はコロンビア・ペルー・チリ・ブラジルに加えコスタリカが出展、アフリカ勢もエジプト・モロッコ・南アフリカに加え新たにカメルーンやジブチ共和国がブース出展、中東地域もカタール、UAEに加えてサウジアラビアもブース出展しており、地域の垣根を越えて国際高等教育の交流を求める盛大な大会となった。



会場前の様子



日本合同ブースの様子



資料参加団体の案内

● 「STUDY in JAPAN」(日本合同ブース)

JAFSA は独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)と協力し、「日本合同ブース」を取りまとめた。好立地に配置されていたため、大会会期中は途切れることなく海外大学の方が来場し、ブース内は終日、日本の大学とネットワークを求める大会参加者や多くの打合せで賑わった。

EAIE2024「STUDY in JAPAN」(日本合同ブース)出展団体

全 14 ブース、16 大学、1 日本語学校 <団体名 50 音順>

フルブース	7 大学	神奈川大学、関西大学/JIGE、関西学院大学、上智大学、千葉大学、東北大学、立教大学+JASSO (総合案内)+JAFSA (運営)
シェアブース	9 大学 1 団体	叡啓大学、お茶の水女子大学、関西大学、国際教養大学、国際基督教大学、帝京大学、東京都立大学、南山大学、日本大学、行知学園日本語学校

● 資料参加

他フェア同様、JAFSA ブースに、資料参加希望校の広報資料を有料にて設置。設置資料を契機に、当該大学とのパートナーシップに興味を持った海外大学に連絡先を知らせることで、オンライン打合せなどに発展させていくことが狙いです。

4大学(50音順):	東京大学、名古屋工業大学、福岡女子大学、明治学院大学
------------	----------------------------

● 情報交換会

JAFSA賛助会員であるコンベラジャパン株式会社と株式会社早稲田大学アカデミックソリューションと JAFSAが共催にて情報交換会(懇親会:有料)を実施し、29大学82名が参加しました。また、来賓として在マルセイユ日本総領事館広報文化班 副領事 青柳 公子氏に参加いただき日本の大学と懇談頂いた。



情報交換会の様子



資料参加団体のパンフレット

1.3. APAIE2025 インド・デリー大会と「STUDY in JAPAN」

JAFSAは11大学、1団体、1企業の計13会員団体を取りまとめて「日本合同ブース」を出展しました。

- ・開催日:2024年3月24日(月)～ 28日(金)
- ・開催地:インド・デリー YASHOBHOOMI (India International Convention & Expo Centre)
- ・参加者:55か国以上から2,200名以上
- ・出展数:約180ブース
- ・後援名義:在インド日本国大使館、一般社団法人 日本経済団体連合会

● 「STUDY in JAPAN」(日本合同ブース)

独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)は運営には携わっていないため、大会期間中の総合案内を含め、JAFSA が全てコーディネートしている。デリー大会は、開催地および開催日の影響もあり、日本合同ブースへの出展団体数や日本からの大会参加者数は例年に比べ少なかった。



日本合同ブースの様子



情報交換会の様子



資料参加大学のブローシャー

APAIE2025 「STUDY in JAPAN」(日本合同ブース)出展団体

全9ブース、11 大学+1 団体+1企業<団体名 50 音順>

フルブース	3大学	関西大学 JIGE、関西外国語大学、関西学院大学+JAFSA(総合案内・運営)
シェア ブース	8大学 1団体1企業	お茶の水女子大学、岡山大学、関西大学、高知工科大学、上智大学、帝京大学、 東京大学/JASSO、南山大学、森興産株式会社

● 資料参加

他フェア同様、JAFSA ブースに、資料参加希望校の広報資料を有料にて設置。設置資料を契機に、当該大学とのパートナーシップに興味を持った海外大学に連絡先を知らせることで、オンライン打合せなどに発展させていくことが狙いです。

3大学(50音順):	岩手大学、成蹊大学、名古屋工業大学
------------	-------------------

● JAFSA海外教育フェア参加奨励金 受給者募集(団体正会員大学限定)

JAFSA では、国際交流部署の若手職員の海外教育フェア等への参加を、国際関連業務に関する「スタッフデベロップメント(SD)」と位置づけ、「参加奨励金」を支給している。受給者には「国際交流部署の若手職員として海外教育フェア等に参加することで、世界の国際教育交流の現場を体験し、所属大学で今後の業務にかす、国際交流の課題を見つけること」が期待される。団体正会員大学対象とし、「10万円/1名 最大3名

(1大学1名まで)」

奨励金採用者	亜細亜大学 国際連携部インターナショナルセンター課員 関口 主樹 横浜国立大学 学務・国際戦略部 グローバル推進課留学交流係 係員 北村 梓紗
---------------	--



横浜国立大学 北村 梓紗氏



亜細亜大学 関口 主樹氏の報告書(JAFSAHP)

● 情報交換会

JAFSA 賛助会員である森興産株式会社(WA. SA. Bi.)と株式会社早稲田大学アカデミックソリューションと共催にて日本からの出展大学、参加者を中心に情報交換会(懇親会:有料)を開催。20 大学 60 名が参加。在インド日本国大使館 広報文化班 中山 恭幸一等書記官、同経済班 渡邊 真人一等書記官が来賓参加。

1.4. その他海外団体

AIEA

AIEA(Association of International Education Administrators エイ・アイ・イー・エイ)は、1982 年創立の米国の国際教育交流団体。NAFSA, EAIE, APAIE とは異なり、高等教育機関の経営や教育方針に関する意思決定者が多くメンバーになっていることが特徴。



CAEI

CAEI(Conference of the Americas on International Education)は北米・中米・南米の国際ネットワーク/大学コンソーシアム。大会は 2 年に一度、北中南米のいずれかの都市で主催され、IOHE (Inter-American Organization for Higher Education)が CAEI 大会の運営を行っています。



NIEA

NIEA(Network of International Education Associations)は高等教育の国際化を進める非営利・非政府団体で、JAFSA は、AIEA(NIEA の創設メンバー)、NAFSA, EAIE, APAIE とともに、NIEA のメンバーとなっています。

2. 国際教育交流の人材育成に関する事業

2024 年度は前年度同様の研修・セミナーを実施しました。「オンライン」研修は、全国各地から参加しやすいという利点に加え、運営面での負担が軽減される。主催研修は、「初任者研修」「実践英語研修」「DE&I 研修」「国際共修研修」の 4 種類。また、多様なトピックについて発表・共有いただく形式の「ウェビナー」を開催し、参加者から好評を得ています。「対面」イベントとしては、大阪・名古屋で「ワークショップ」を開催し、参加者が直接交流できる機会をより提供しました。

これにより、ネットワーキングの形成や参加者間の意見交換が一層活発に行われ、オンライン研修とは異なる価値を提供する成果を得ることができました。

研修参加団体数 大学:95 教育機関:2 賛助会員:1

2.1. オンライン研修プログラム

(1)「初任者研修」～基礎から学ぶ国際教育交流～

留学生受け入れ・送り出しを含む、国際関係業務の初任者向けで、理論と実践を結びつけ、基礎力強化を目指します。事前課題やグループワークを多く取り入れた、参加型の研修。全国から参加する会員同士のネットワーク構築の場ともなっています。主な対象は、留学生受け入れ・送り出しを含む、国際教育交流分野の担当になり 3 年以内の教職員。

年間 5 回実施。半日コース X 連続 2 日で 1 セット。定員 20 名。



- ・講師：巽 洋子(名古屋大学 国際本部グローバルマルチキャンパス推進機構 特任助教)
- 葉佐 賢太郎(関西学院大学 王子キャンパス開設準備室 職員)
- 岡本 大夢(叡啓大学 教学課 主任)
- 小嶋 緑(東北大学 高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター 特任助教)

実施回	実施日	参加者
第1回	5月13日(月)・14日(火)	21名/18団体会員(18大学)
第2回	6月17日(月)・18日(火)	20名/18団体会員(17大学、1賛助会員)
第3回	7月22日(月)・23日(火)	20名/20団体会員(18大学、2機関)
第4回	10月17日(木)・18日(金)	18名/17団体会員(17大学)
第5回	12月12日(木)・13日(金)	20名/17団体会員(17大学)

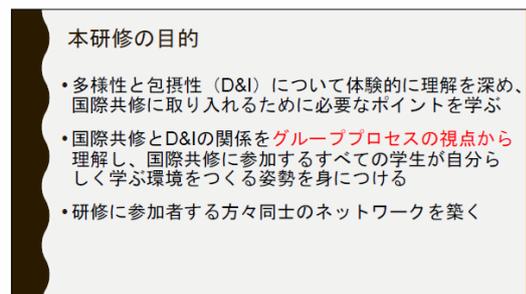
(2)「実践英語研修」～Practical English for International Office Staff～

ブリティッシュ・カウンシルが JAFSA と協議の上で企画する、国際業務担当者向けの英語研修。グループワーク中心で、国際業務に直結した実践的な研修内容となっています。年間 5 回実施。全回、英語教授法の資格を持ったブリティッシュ・カウンシルのネイティブ講師が担当。終日コース x 1 日で 1 セット。定員 12 名。

全 5 回/テーマ	レベル目安	実施日	参加者
Introductory Business English 「ビジネス英語-初心者向け」	[準中級～中級]	5月23日(木)	12名 /11 団体会員 員 (11 大学)
Supporting Students Face-to-Face, by E-mail and on the Telephone 「学生へのサポート(対面・メール・電話)」	[中級～上級]	7月11日(木)	11名 /10 団体会員 員 (10 大学)
Presentations: Your University 「大学紹介とプレゼンテーション」	[中級～上級]	10月3日(木)	10名 /9 団体会員 (9 大学)
Pronunciation and Global Englishes 「発音と Global Englishes」	[中級上～上級]	11月14日(木)	9名 /8 団体会員 (8 大学)
Business Speaking 「ビジネススピーキング大学紹介、ネゴシエーション・クレーム 対応」	[中級～上級]	12月5日(金)	14名 /12 団体会員 員 (12 大学)

(3)「国際共修研修 Diversity(多様性)& Inclusion(包摂性)を国際共修に活かす」

企画・協力:講師陣 (講師名箇所を参照)



「国際共修」とは、多様な文化的・言語的背景をもつ学生同士の学び合いの場を指すとともに、そうした学習環境をファシリテーションによって作り上げる教育的仕掛けのことも指す。2024 年度の研修では「多様性、公平性、包摂(Diversity, Equity & Inclusion; DEI)」の概念も取り入れ、その中でも「多様性と包摂性 (D&I)」に注目して、より国際共修というテーマを深める研修となった。

(半日コース x 1 日で 1 セット:定員 20 名)。

・実施日: 2024 年 11 月 29 日(金) 13:00.17:00

・講 師: 平井 達也(明治大学 国際日本学部 准教授)

米澤 由香子(東北大学 高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター 准教授)

秋庭 裕子(東京学芸大学 大学教育研究基盤センター機構 国際交流/留学生センター 准教授)

・参加者: 18 名 /12 団体会員 (12 大学)

(4) DE&I 研修「国際交流における障がい学生支援」

～改正障害者差別解消法施行を受け、改めて合理的配慮を考える～

2022 年度より開始。本年度では特に発達・精神障がいの支援や事例の特徴について実施しました。

(半日コース x 1 日で 1 セット:定員 20 名)

・講 師: 望月 直人(大阪大学 キャンパスライフ健康・相談支援センター相談支援部門 准教授)

・講 師: 池谷 航介(岡山大学 教育推進機構 障がい学生支援室 准教授)

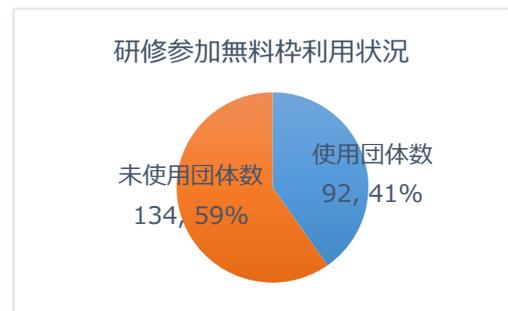
実施回	テーマ	実施日時	参加者
第 1 回	発達・精神障がいについて	10 月 25 日(金) 9:00-12:30	10 名 /9 団体会員(9 大学)
第 2 回		2 月 28 日(金) 9:00-12:30	12 名 /10 団体会員(10 大学)

(5) 会員大学特典(研修参加無料枠)利用状況

学生数に応じて会員大学に提供している研修参加無料枠の数および使用状況は以下のとおり。

(無料枠提供団体数 226 使用団体数 92 未使用団体数 134)

学生数	無料枠	利用団体数/対象団体数
20,000 名以上	年度内 3 回	15/20(75%)
10,000~19,999 名	年度内 2 回	16/39(41%)
1,000~9,999 名	年度内 1 回	61/167(37%)
500~999 名		
500 名未満	なし	-/7(0%)



2.2. ウェビナー(海外フェア振り返りウェビナー、特別ウェビナー)

海外フェア参加後に出展団体や参加団体から大会で得た効果・反省点等を発表いただき、これまで海外フェアに参加していない大学に参加を後押しする機会となっている「海外フェア振り返りウェビナー」と、会員ニーズに基づいたテーマを取り上げた「特別ウェビナー」と合計 8 回実施(共催含む)。

いずれのウェビナーも短時間で構成されているため、参加しやすく、高評価を得ました。

参加団体数 大学:140 教育機関:16 賛助会員:11 JAFSA フレンズ:12

「海外フェア振り返りウェビナー」

(1) 「APAIE 2024 オーストラリア・パース大会振り返り」

実施日	2024 年 5 月 16 日(木) 11:00-11:40
参加者	57 名(37 大学、4 教育関連機関、3 賛助会員)
登壇者	南山大学 国際センター事務室 派遣留学係長 川瀬 千恵美 氏 明治学院大学 国際センター国際交流課 課長 瀬尾 哲也 氏

(2) 「NAFSA 2024 米国・ニューオリンズ大会振り返り」

実施日	2024年8月26日(月) 15:00-15:50
参加者	66名(37大学、5教育関連機関、2賛助会員、2JAFSAフレンズ)
登壇者	独立行政法人 日本学生支援機構 留学生事業部 留学情報課 主任 坂井 裕紀 氏 青山学院大学 国際部国際交流課(国際センター)主任 吉田 恭子 氏 東京外国語大学 留学生課 留学生教育係 正木 さくら 氏

(3) 「EAIE 2024 フランス・トゥールーズ大会振り返り」

実施日	2024年12月5日(木) 14:00-14:50
参加者	50名(36大学、4教育関連機関、2賛助会員)
登壇者	関西大学 国際事務局 国際教育支援室 神宮司 健太 氏 千葉大学 学務部国際企画課 専門, SULA 支援事務室長 塚田 かおり 氏 都留文科大学 国際交流センター 専門職員 雨宮 ひとみ 氏

「特別ウェビナー」

(1) 「留学生のメンタルヘルスの現状と課題について」

留学生は異なる環境の中で様々なストレスを受け、サポートが必要な状態になることが多い。留学生受け入れ側の心理や言動、そして留学生のストレスについて、データや理論に基づき講演いただいた。

実施日	2024年7月8日(月) 14:00-14:40
参加者	148名(78大学、4教育関連機関、2賛助会員、6JAFSAフレンズ)
登壇者	柘植 道子 氏(一橋大学 学生支援センター 特任准教授)

(2) 「第3機関を通しての海外大学派遣先の拡大と学生サポート拡充」

(SAF スタディ・アブロード・ファウンデーション共催)

JAFSA 団体正会員で、国内外の大学と連携して学生モビリティに貢献している第3機関である SAF スタディ・アブロード・ファウンデーションより、その活動内容やメンバー校の留学事例を紹介いただいた。

実施日	2024年7月11日(木) 10:30-11:50
参加者	41名(33大学)
登壇者	上林 奈津子 氏(SAF アシスタントディレクター<大学連携・プログラム開発>) Donna Anderson, PhD. (米国 University of Montana) 藤原 莉子 氏(京都外国語大学 国際部)

(3) 「留学生の日本語教育の現状と課題について」

JAFSA 団体正会員である行知学園日本語学校より、近年の中国の経済発展を受けた留学生の動向、留学生の日本語教育について、現状と課題、そして改善策について提案いただいた。

実施日	2024年8月29日(木) 14:00-14:40
参加者	96名(82大学、4教育関連機関、9賛助会員、1JAFSAフレンズ)
登壇者	楊 舸(ヨウ・ガ)氏(行知学園日本語学校 代表取締役)

(4) 「大学の国際交流推進における日本語教育機関との連携について」

(特定非営利活動法人 海外留学生安全対策協議会 JCSOS 共催、JAFSA 事業委員会企画)

留学生受入拡大が大学にとって課題となっている中、多くの留学生は日本語教育機関を経由して大学に入学している。日本人学生の急速な減少のなかで、日本語教育機関に求められている社会的役割、大学と日本語教育機関が国際交流推進においてどう連携していくかについてお話しいただいた。

実施日	2024年12月19日(木) 13:00-14:15
参加者	84名(44大学、3教育関連機関、5賛助会員、1JAFSAフレンズ)
登壇者	森下 明子 氏(学校法人 アジアの風 岡山外語学院 副理事長)

(5) 「地方公立大学の挑戦～キャンパスで国際交流～教職員住宅を活用した国際学生寮の運営」

JAFSA 団体正会員の静岡県立大学より、国籍・年齢が異なる 12 名が共同生活を送る国際学生寮立ち上げ経緯や、3 年間の運営実績について事例を交えながら紹介いただいた。

実施日	2025年3月18日(火) 14:00-14:55
参加者	54名(34大学、3賛助会員、1JAFSAフレンズ) + 静岡県下の大学関係者 5名
登壇者	山口 超子 氏(静岡県立大学 教育研究推進部 国際交流室 室長) 高橋 竜 氏(静岡県立大学 教育研究推進部 国際交流室 主幹)

2.3. 対面イベント(ネットワーキングミーティング)

テーマとして、コロナ後の新関係構築に向けてと題し、次世代に向けた交流・交友関係を新たに構築するため、また、今後国際教育交流の担当者が問われるスキルやマインドを共有することを目的にネットワーキングミーティングを実施しました。

協力	大阪学院大学、 椋山女学園大学
実施日	2024年7月4日(木) 14:00-18:00(大阪) 2024年10月10日(木) 14:00-18:00(名古屋)
対象者	JAFSA 会員
参加者	大阪 25名(10大学、3教育関連機関、2賛助会員) 名古屋 22名(14大学、2賛助会員)
講師	近藤 祐一(米国インカーネイトワード大学 国際アドミッションリエゾン)
構成	第一部 講義+質疑応答(45分) コロナ禍を経て変わった国際教育交流。常に国際交流業務担当の教職員に求められる資質やスキルについて、また今後、一層国際化が進む大学で必要となっていくマインドについての講義を行った。 第二部 ディスカッション(90分) 国際教育交流の現場で直面している課題についてグループでディスカッションをし、その結果を共有・報告。講師や他参加者からフィードバックしました。 第三部 情報交換会(90分)※教育機関・賛助会員参加可 参加者を中心に、ネットワーク形成を目的に実施。他大学の取り組み、日頃の問題点を共有。



講義の様子(大阪)



ディスカッションの様子(名古屋)



グループ発表の様子(大阪)

2.4. 協力(広報)/後援プログラム、他

団体会員(正会員・賛助会員)による各種フェア・プロジェクトにおいて、企画や広報等で協力。内容や関わり方の程度により、協力・後援等の形で対応しました。

(1) JAFSA 協力(広報)プログラム

① ICEF「国内高等教育機関における留学生リクルートの展望と方略」ウェビナー

主 催	ICEF GmbH [プラチナ賛助会員]
実施日	2025年1月30日(木)

② ICEF 日韓大会 2025—日本語教育機関と高等教育機関との接続環境の変化と対応

主 催	ICEF GmbH [プラチナ賛助会員]
実施日	2025年2月25日(火)-27日(木)

③ 2025 日本留学・就職・地域活性フェア in Taipei

主 催	一般社団法人 国際人流振興協会 [団体会員]
実施日	2025年4月19日(土)-20日(日)

④ 2025 日本留学・就職・地域活性フェア in Indonesia

主 催	一般社団法人 国際人流振興協会 [団体会員]
実施日	2025年7月19日(土)-20日(日)

(2) JAFSA 後援プログラム

① BJT ビジネス日本語能力テスト

主 催	公益財団法人 日本漢字能力検定協会 [団体会員]
実施日	2024年度(通年)

② 欧州留学フェア 2024

主 催	駐日欧州連合代表部
共 催	ドイツ学術交流会(DAAD)[団体会員]、法政大学、同志社大学 [団体会員]
実施日	2024年6月15日(土)-16日(日)

③ 2024 年 第 77 回定例セミナー(JCSOS)

主 催	特定非営利活動法人 海外留学生安全対策協議会 [団体正会員]
実施日	2024 年7月 19 日(金)

④ 2024 日本留学・就職(技術・人文知識・国際業務、介護、特定技能)フェア in Indonesia

主 催	一般社団法人 国際人流振興協会 [団体正会員]
実施日	2024 年 7 月 27 日(土)-28 日(日)

⑤ 2024 年国際教育夏季研究大会(SIIEJ2024)

主 催	一般社団法人 国際教育研究コンソーシアム (RECSIE)
実施日	2024 年 8 月 7 日(水)-8 日(木)
登 壇	大会において「大学の国際化促進フォーラム」特別セッションとして、「大学の国際化促進フォーラムの展望と国際化に対して果たす役割や期待」をテーマにしたセッションがあり。 会長校上智大学 グローバル化推進担当 副学長森下 哲朗氏に登壇頂いた。

⑥ 2024 年第 4 回 日中私立大学学長シンポジウム

主 催	一般社団法人 国際教育支援協会 [団体正会員]
実施日	2024 年 11 月 22 日(金)-25 日(月)

⑦ 2024 年度 JCSOS 北陸信越地区セミナー

主 催	特定非営利活動法人 海外留学生安全対策協議会(JCSOS)[団体正会員]
実施日	2024 年 11 月 22 日(金)

⑧ 2024 年度 第 78 回 JCSOS 定例セミナー

主 催	特定非営利活動法人 海外留学生安全対策協議会(JCSOS)[団体正会員]
実施日	2024 年 12 月 13 日(金)

⑨ 2025 留学生教育研究会

主 催	一般社団法人 国際人流振興協会 [団体正会員]
実施日	2025 年 2 月 5 日(水)

(4) その他

● 「留学生担当教職員研修会」への講師派遣(紹介)

主 催	留学生の違法活動防止のための連絡協議会
内 容	「留学生のためのメンタルヘルスケア」
講 師	一橋大学 保健センター 障害学生支援室 特任准教授 柘植 道子
実施日	2025 年 2 月 26 日(水)

3. アウトリーチ・広報に関する事業

3.1. 国際教育交流に関する研究・調査

(1) JAFSA における事業開発の活発化、および提言

2023 年 4 月に事業委員会発足

事務局とともに JAFSA 事業の発展のための企画・開発を行い、併せて外部団体等と連携を図り、JAFSA 事務局の一層の活性化と JAFSA 活動の充実を目指す。JAFSA 理事(JCSOS 理事長)である池野 健一氏を中心に国内諸団体・関係省庁等との連携を持ち、適宜発信を行った。

■ 25 年 1 月

事業委員会「今後の方針について」に発表

今後は、大学の国際交流を大学経営者に資する活動としても重視していく方針を示した。

その背景には、大学経営の観点から見ると、国際交流を推進するための組織の精緻な構築、十分な資金の確保、政財界への働きかけ、そして国際交流に関する実践的な知識の充実が不可欠であることが挙げられる。

■ 24 年 12 月

事業委員会企画 JCSOS・JAFSA 共催ウェビナー「大学の国際交流推進における日本語教育機関との連携について」開催した。

■ 24 年 7 月

「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ(J-MIRAI)(第二次提言)」への 4 団体(JAFSA・JCSOS・新資本主義研究会大学部会・JATA)合同提言を提出した。

JAFSA 理事会(5 月 22 日開催)において承認された「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ(J-MIRAI)(第二次提言)」への 4 団体合同提言書を、曄道 佳明会長が代表して、内閣官房 内閣審議官 教育未来創造会議担当室長 瀧本 寛氏、内閣官房 教育未来創造会議担当室 参事官 滝波 泰氏に手交しました。その際、合同提言の意図、各項目における要望を伝えたほか、双方の関係者より様々な視点から意見が出されるなど、貴重な意見交換の場となった。



曄道 JAFSA 会長(左) 瀧本内閣審議官

■ 24 年 6 月

JAFSA・JCSOS・新資本主義研究会大学部会・JATA 代表者が、文部科学省高等教育局参事官(国際担当)付留学生交流室長を含む職員 4 名と意見交換した。

(2) 「大学の国際化促進フォーラム」の正会員として

「大学の国際化促進フォーラム」は、2021 年に発足。日本の大学の国際化をオールジャパンで促進する大学の主体的な活動の場として、SGU 採択校を中心に、世界展開力採択校及び希望する大学・機関等が会員となり、文部科学省等関係機関とも連携しつつ、大学の国際化に関わる取組みや研究の実施・共有・展開、情報の提供・共有を行う。JAFSA は 2021 年度に正会員として入会。

(3) 「JPN-COIL 協議会」の賛助会員として

「JPN-COIL 協議会」は、2018 年に発足。「COIL を始めとした次世代の国際連携教育手法を活用した双方向交流プログラムの構築及び運営にあたり、国内外の高等教育機関と連携し、相互に教育技術や質の向上のための諸事業を展開することにより、世界の架け橋となる人材育成に寄与すること」を目的としている。関西大学(JAFSA 団体理事)が事務局を担っている。JAFSA は 2021 年度に正会員として入会。

(4) 「IIGE(Institute for Innovative Global Education)」の事業活動協力

IIGE は「グローバル・キャリアマインドを培う COIE Plus プログラム」グローバル教育イノベーション推進機構(IIGE)として、関西大学が 2018 年に設置。高等教育の質の保証を図りながら、米国の大学との間で COIE 型教育を活用しつつ、日本人学生の海外留学や外国人学生の積極的受入を伴う教育連携プログラムを補助する。JAFSA は 2021 年度に IIGE と MOA を締結。

3.2. 広報に関する事業

(1) 2023 年度年次報告書の作成および配布

2024 年 8 月作成済。ダウンロード入手・閲覧のみとしている(HP 掲載)。

<https://www.jafsa.org/cms/wp-content/uploads/2024/06/AnnualReport23.pdf>

(2) メーリングリストおよびウェブサイト運営

メーリングリスト運営・管理

- 団体・個人会員登録アドレス数(部署アドレス含む):約 960 件 推定読者数:約 4,500 名

① [jafsa-station](会員からの情報発信/イベント告知/人材募集)

---- 2024 年度年間配信数:約 360 件(利用団体数 79/283 団体 28%)

---- 配信数上位団体は次のとおり(大学ではなく、在日公館・教育機関からの配信が多い)

団体名	投稿数
ICC インターナショナル・コミュニケーションズ・カOUNシル	30
ETS Japan 合同会社	23
独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構	22
ドイツ学術交流会 東京事務所	19
独立行政法人 日本学生支援機構	15
特定非営利活動法人 日中留学推進機構	14
カナダ大使館	14
アメリカ大使館	11
Campus France-フランス政府留学局-日本支局	9

② [jafsa-office] (事務局からの配信専用)

---- 2024 年度年間配信数:約 110 件(研修案内・イベント告知・海外フェア案内等)

---- 2024 年度より海外フェアでコンタクトのあった海外大学や、非営利機関からの情報を積極的に配信

- IIE(Institute of International Education)主催スカラシップ(Quad)について
- Chennai Institute of Technology (CIT)からの案内
- NAFSA International Education Professional Certificate (IEPC) プログラムの案内
- 駐日欧州連合 代表部「Erasmus+(エラスムス・プラス)に関する説明会」の案内
- 駐日マルタ大使館「マルタ&日本ビジネスセミナー」開催の案内
- Euncet Business School(UPC Barcelona Tech)から交換留学の案内
- Universidad Europea International Agreements in Spain からの案内
- IAU(International Association of Universities) 主催ウェビナーの案内 等

- 事業運営用(NAFSA 出展団体用、EAIE 出展団体用、APAIE 出展団体用、理事会用等)
- 『SBP(ソーシャル・ビジネス・パートナーズ)ニュース』：約 70 件(利用企業数 24/50 企業 48%)
(賛助会員サービス:[jafsa-station]を活用して事務局より配信)

ウェブサイトの運営

従来どおり一般ページでは外向きに必要な情報および簡潔な説明を、会員専用ページではイベント・研修開催案内・実施報告などのより詳細な内容を掲載した。

3.3. その他

(1) JAFSA 団体会員のサービス活用状況表の作成

団体会員を対象に JAFSA が提供する様々な機会、サービスの活用状況表を作成・管理。活用状況を事務局内で共有した。活動状況に応じて大学訪問、イベント参加を促すなど、JAFSA 活動への積極的な関わりを働きかけた。

サービス(機会)活用状況項目は、以下

- 研修(13 回実施)
- 海外フェア(各 3 回:出展・資料参加・情報交換会参加)
- ウェビナー(8 回実施)
- 対面セミナー(2 回実施)
- JAFSA メーリングリストへの投稿等([jafsa-station]への投稿等)

(2) JAFSA 主催研修の特典利用状況の共有

会員大学には学生数に応じて、研修参加無料枠を提供。23 年度より「特典利用状況表」を作成し、会員大学の JAFSA 窓口担当者の特典利用状況を共有することで、スムーズな申込・受付が可能となった。また利用状況を把握することで、傾向や次年度以降の研修参加無料枠数の変更検討ができた。



特定非営利活動法人JAFSA
(国際教育交流協議会)

Japan Network for International Education

2024年度報告書

<https://www.jafsa.org>